

法人名	横浜市
施設名	横浜市川上保育園

発表者名 (職名)	青木 達也 (保育士)	住所	横浜市戸塚区川上町4-9		
発表者名 (職名)		TEL	045-822-8987	FAX	045-822-8946
発表者名 (職名)		メールアドレス	ta11-aoki@city.yokohama.jp		
		URL			
		定員	144名	職員数	67名

発表の概要・内容

○発表の概要

2、3歳児クラスの時のAさんが自分と保育者とのかかわりから少しずつ友達との関係性を広げていく姿を「集団の中での子どもの育ちを考察」「集団の中で共に生活することで得られた学びや心の成長と人とのかかわりについて考える」「インクルージョン保育の視点で、自身の保育を振り返る」という3つの視点をもってかかわってきた実践を報告します。

○保育実践の様子

2歳児クラスでのAさんは、新しい環境の中で気持ちが落ち着かず、思い通りにいかない時は激しく泣いて気持ちを表していました。3歳児クラスになると大好きな感覚遊び（ぐるぐる回る、でんぐり返し、ジャンプなど）を楽しむ中で、保育者が『※いいね』をたくさん伝えると、徐々に保育園で安心して過ごせるようになっていきました。※上手にできたことが「いいね」ではなく、いろいろな動きを発見したことが「いいね」。

4歳児クラスでは、保育者との安定したかかわりのもと、Aさんの大好きな「体を動かす遊び」を友達が認めていくことで、Aさんは集団活動に意欲的に参加するようになりました。それと同時に、気持ちが落ち着かないときには、どのように気持ちを整えていくかをAさんの興味関心から見つけていくようにしました。すると、クラスでブームになっていた「コマ回し」にAさんが興味をもち、気持ちを整える姿が見られるようになりました。また、ある日の遊びではAさんがフライパンで食べ物をはっきり返す遊びをしていたところ、友達が興味をもち、何回ひっくり返せるか、いろいろな道具でやってみたら…と遊びが発展していく姿も見られました。「友達とかかわることが楽しい」という気持ちが高まる一方、関係が深くなっていくことで友達と気持ちの面でごつかり合うこともあります。保育者が援助をしながら、どうしたらいいのかを考える経験になっていると感じています。

○インクルージョン保育の視点で保育を振り返る

「インクルーシブ (inclusive)」とは、「包括的な、すべて含んだ」という意味が含まれます。この視点を保育に取り入れ、子どもの多様な育ちを受けとめて実際に保育をしてみると、誰にとっても豊かな取組にするには保育者の工夫が必要になることが分かり、その場の臨機応変な対応が求められることも感じました。

一方で、取組の中で子どもからの発信を保育者が丁寧にとらえることで、子ども自ら考えた遊びが生まれ、探求心が育っていく様子も見られました。Aさんが自分で考えた遊びを保育者も一緒になって楽しみ、そこから周りの友達も興味をもってクラス全体の遊びにつながっていったと感じます。

インクルーシブの考えを取り入れてから、毎日の子どもの姿をよりよく観察するようになり、活動の内容を子どもの姿を中心に考えられるようになりました。今回の発表を通じて「子どもの姿をよく観察し、見極め、子どもの力を信じるのが子どもの成長につながる」ということを学びました。

メモ